

水泳部部歌

桐陰会 作

爽快に (♩=96)

水泳部部歌

一、夜は紫に明け初めて

沖より寄する波の音の

健児が夢を破る時

見よ漂える雲間より

照るや真紅の朝日影

あゝ若き血の胸に湧く

四、山の端近く懸け渡す

虹の香りを醒ますべく

咲き乱れたる花園の

槿花の栄を覚ますべく

茗溪六百桐陰に

籠れる健児君見ずや

二、それ東海の一聖地

帝都を隔つる三十里

濁世の塵を永久に避け

塵寰遠き富浦に

顧みすれば光栄の

歴史は移る八十年

五、されど我が友心せよ

清き流れも止まらば

淀みて濁る憂あり

天翔り行く竜も亦

奢れば遂に悔を得つ

心せんかな永久に

三、滔々として世の波の

正義の岸を洗い去り

狂奔澎湃逆巻きて

怒濤乱れて寄するとき

乗り切る力我に在り

蹴破る力我に在り